

## 日本で一番危険な神社は行ってみてホントだということがわかった

山行実施日 2021（令和3）年10月30日（日）6：00～17：00（※本殿までの登り約2時間、下り約1時間）参加者 L澤田、SL小小山内、SL長沼、近藤、太田、宇田、川村、津川 8名 天候 快晴

せたな町にある「立象山（りっしょうざん）」については567の階段の登りが15分の山であったのでそのことについては割愛し、太田山神社についてのみ記す。

6時に伊達道の駅に集合し、せたな町大成区太田へ2時間すこしで到着。太田山神社本殿に登る前太田神社に参拝し、安全祈願する。



鳥居横の「太田神社」と「太田山神社」の名称が違う。海岸すぐ近くにある神社は「太田神社」できつい斜度を登りきったところが「太田山神社（おおたさんじんじゃ）」。

古くは西暦1400年代に創建された神社だが、蝦夷地最古の修験道場（山に籠り、厳しい修行を行うことで悟りを得る修験者・山伏）は山岳信仰と仏教が合わさったものだったが、その神仏習合は明治初めの政府の政策で仏像をご神体としている神社は仏像を遷座（＝仏像などをよそへ移すこと）したという意味のことが説明板にあった。登り切ったところの本殿と海岸そばにある本殿の違いをつけるためにあえて「山」をつけるかつけないかにしたのではないか。

しかし、「なるほど、厳しい登りであるからこそ御利益のある素晴らしい神社である」から、鳥居の前で頭を下げ、本殿への上り下りの安全を祈り、うやうやしく階段を登り始めたが、この階段の斜度がきつかった。





最後の約 7 メートルの登りを鉄の輪とロープを使って登るが、参加者の安全を確保するため、S L 小山内さんが先に登り、ロープをおろしたあと、手や足が壁から離れて下に落ちないようにリーダーの指示でハーネスのカラビナにロープをかけ、小山内さんが A T C で登る人を確保しつつ、一人ずつ登ってもらった。

鉄の輪やロープを利用して登るのが大変で、岩に手や足をかけたほうが登りやすいと感じた。全員が登って紅葉終盤の下界を楽しむ。日本海の左手の向こうに奥尻島が見えた。



途中で行き会った若い男性は最後の登りで「これは普通の登山じゃない。岩登りだ。あぶないので本殿まで登らないで降りてきた」と言っていた。やはり私たちは山岳会会員で万全の態勢で安全に登り下りするのは普段の訓練と登山のおかげであった。

危険な場所ではあったが、笑顔がたくさんあり、楽しい山行だった。安全登山に協力いただいた会員に感謝する。  
(記録 澤田)